

その「胸部X線」、どう読む？

胸部X線写真の読み方と考え方



見逃してはいけない所見を、
拾い上げる力を。

見落としを防ぐ読影の基本を学ぶ40分



何が難しい？

- ✓ 症状と関係ない重大疾患が潜む
- ✓ 特に肺癌の見逃しに注意
- ✓ ルーチン撮像でも油断しない



何を学ぶ？

- ✓ 系統的な目線の動かし方
- ✓ 読影の基本
- ✓ 見落としやすいパターン



なぜ重要？

- ✓ 胸部X線は主治医の読影が重要
- ✓ 見逃しは誰にも拾われないことがある
- ✓ 忙しい現場でも使える視点



セッションの簡単な説明

本セッションでは、日常臨床で欠かせない胸部X線写真の読み方と考え方を共有します。胸部X線読影では、症状と関係のない重大疾患、とくに肺癌が潜んでいることがあり、肺炎検索や術前・入院時ルーチン撮像でも見逃しが起こりえます。CTとは異なり、胸部X線は主治医の読影が重要です。見落としを防ぐため、系統的な目線の動かし方と見落としやすいパターンを、実践を交えて学びます。

担当

江原 淳 先生
東京ベイ・
浦安市川医療センター
総合内科 部長

一緒に、診る力を
レベルアップしよう！

こんな研修医におすすめ！

- ✓ 胸部X線読影に苦手意識がある
- ✓ 重大疾患の見逃しが不安
- ✓ 忙しい現場での読影のコツを学びたい